

静岡県立病院機構理事長を拝命して



院長 坂本 喜三郎

「こども病院ひろば」をお読みいただきありがとうございます。

今年で院長拝命から9年目を迎えます。そして同時に、この4月から静岡県立3病院（総合病院、こころの医療センター、こども病院）の総括役である理事長を兼任することになりました。院長として、理事長として新年度の挨拶をさせていただきます。

当病院機構は何のためにあるのかという「存在意義=Purpose」を新たに設定し、

「Purpose: 医療と医学で、人と社会の今と未来に貢献する」

現在の理念を「私たちが目指す到達点=Vision」に据え、

「Vision: ともにつくる、信頼と安心の医療」

以下の2つを「いま実現すべき使命=Mission」とします。

「Mission」

(#) 患者に寄り添い、

患者に信頼され、

患者が安心してできる医療を、同時代をともに生きる人と社会に提供する

(#) 医療と医学の両輪で、

人と社会の未来に貢献できる第一級の病院、それを支える機構であり続ける

失われた30年の間に日本の国力、経済力、気力の衰退、コロナ、そして少子高齢化が加わり、現在の医療、医学を取り巻く環境は厳しさを増しています。

私も十二分に承知しているつもりです。

だからこそ困難な道程を承知のうえで、こども病院の理念

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います」

を実現するべく、

全職員でOne teamを作り、

“カイゼン”のサイクルを回して業務効率を上げ、

質の高い医療の提供、教育と研究の推進、そして経営も成り立つ基盤を備えた、

子どもと家族、そして一緒に働く仲間も支え続けられるこども病院

を目指す覚悟です。

多くの方にご協力をお願いすることになるかと思いますが、ご指導、ご鞭撻、何卒よろしくごお願い申し上げます。

Contents

| | |
|----------------------|-----------------------------|
| 静岡県立病院機構理事長を拝命して…… 1 | 小児糖尿病治療の最前線～DXを駆使して～ …… 4・5 |
| 新任あいさつ…… 2 | 新任部門長の紹介 …… 6・7 |
| 退職者・看護部新入職者紹介…… 3 | 役職別主要者一覧・編集後記 …… 8 |

新任あいさつ



副院長兼看護部長 内藤 美樹

新緑のまぶしい季節となりました。

皆さまにおかれましては、ますますご清祥のことと心よりお喜び申し上げます。

また、日頃より当院の運営に多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

このたび、副院長兼看護部長を拝命いたしました内藤美樹と申します。

令和5年に看護部長に就任して以来、「いま、患者様にとって何が最善か」を常に考え、安心と温かさのある看護の提供に努めてまいりました。

日々の現場では、患者様やご家族と真摯に向き合いながら、看護の持つ力や可能性を実感するとともに、仲間と支え合い成長していくチームの姿勢に、私自身も多くの学びと励ましをいただいています。

看護師が自信と誇りを持って働ける環境こそが、質の高い看護に繋がると信じ、“看護の力を引き出し合える環境づくり”を大切に、人材育成にも継続して取り組んでまいりました。

看護師には、患者様の命と生活に深く関わる職業としての倫理観と責任感が求められます。

その自覚を育てることこそ、看護部長としての大きな使命であると感じています。

そのなかで私は、「できない」から「できる」への転換 — 『どうすればできるかを考える』という姿勢を大切にしてきました。課題に対して前向きに取り組む風土を育むことで、現場の力は確実に伸びていくと実感しております。

そしてこれからは、副院長という立場から病院全体の運営にも携わらせていただくこととなります。

現場で働く職員の声を大切にしながら、経営的な視点も取り入れ、より働きやすく、持続可能な組織づくりを目指してまいります。

これからも、患者様とご家族にとって安心できる医療・看護が提供できるよう、職員一丸となって取り組んでまいります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

令和7年5月



※昨年度、看護部マスコットキャラクターとしてデビューしました。こちら、よろしくお願いいたします。



看護部新入職者紹介



今年度、看護部は、新しいスタートラインに立った14名を仲間に迎えました。

新人看護師はこども病院で働くことの喜びと期待、不安を抱えています。フレッシュな感性を磨き、看護実践力の向上に努めてまいります。その成長を支える暖かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



お世話になりました

○令和6年度末常勤医師退職者（2名）

田代 弦（医療安全部）

奥山 克己（外科系診療部長(麻酔科)）



小児糖尿病治療の最前線 ～DXを駆使して～



糖尿病・代謝内科 佐野 伸一郎

糖尿病・代謝内科の佐野伸一郎です。今回は、当科での糖代謝疾患への取り組みを紹介させていただきます。

糖尿病・代謝内科の小児糖尿病診療の特徴

当科は、「難病から生活習慣病まで、子ども達に最善・最新の内分泌代謝診療を提供する」をパーパスとして日々診療に取り組んでいます。糖尿病診療は、当科の最重要領域の1つです。若年で発症する小児1型糖尿病(T1DM)は罹病期間が非常に長く(60年間以上)なります。将来の合併症予防のためにも、本疾患に精通した医師のもとで適切な血糖管理と患者教育を行うことが非常に重要です。

当科でのT1DM診療の特徴は以下の通りです。

- ①劇症T1DM、糖尿病ケトアシドーシス、遺伝性糖尿病、薬剤性糖尿病のすべてに対応
- ②最新のインスリンポンプから従来のペン型インスリン、持続グルコースモニタリング(CGM*)、自己血糖測定器まで幅広いデバイスを用意し、お子さんにあわせて柔軟に選択可能
*CGM: Continuous glucose monitoring
- ③糖尿病療養指導士、栄養士、心理士ら多職種チームによる治療サポート
- ④急性期から定期受診までDX(digital transformation)を積極的に導入

DXを用いた当科の糖尿病診療

・その1：院内ネット環境を用いた急性期グルコース管理

乳幼児の劇症型～急性発症T1DMの患児では、わずかなインスリン投与量の違いで低血糖や高血糖となり、激しい血糖変動を起こします。さらに気分や体調で食事量のばらつきが大きく、血糖コントロールに難渋します。そのため治療ではCGMを用いたきめ細やかなインスリン調整が必要となります。ペン型インスリンの最小投与量が0.5単位であるのに対し、インスリンポンプでは0.025単位刻みでの調整が可能です。

当科では、急性期乳幼児T1DMに対して、基本的に全例インスリンポンプとし、CGMを導入して、ベットサイドでグルコーストレンドの常時把握をしてきました。上記の取り組みに加え、最近では、院内ネット環境を用いたグルコースモニタリングを導入しましたのでご紹介します。

患者用iPhoneと医師用iPhoneを用意し、患者用iPhoneとCGMをリンクさせ、インターネット環境を通じて常時医師用iPhoneでCGMが見える様にしました(図1)。これにより、外来中でも、院外にいても担当医が患児の血糖値を把握できるようになりました。さらに低血糖・高血糖時は、医師用iPhoneのアラームが鳴るように設定しており、病棟で気づかれぬ異常血糖値にも対応可能となりました。

このシステムにより、急性期糖尿病治療がとても安全に行えるようになりました。また保護者にも、いつも担当医チームが血糖値を把握しているという安心感があります。



図1. ネット環境を利用した急性期グルコースモニタリング

・その2： クラウドを用いたオンライン診療

現在、当科では40人近いT1DMの患児を診ています。T1DM患児へのCGM導入率は100%です。患児のすべてのCGMデータは、保護者らのスマホを介しクラウド上で管理しています。そのため、担当医がいつでも患児のグルコーストレンドを把握できます。このシステムを用いて、当科はオンライン診療を提供しています（図2）。下田市や松崎町、伊豆の国市など遠方でも安心して専門診療の継続が可能になりました。急な用事等で来院できない時にもオンライン診療に切り替え柔軟に対応しています。

このシステムが最も役に立つのはシックデイの時です。来院しなくても患児の状態が把握できます。来院の要不要の判断、保護者への助言などを迅速に行うことができとても役立っています。



(図2) クラウドを用いたオンライン診療

T1DM治療のトピックス

T1DMには、3つのステージがあります。

- ステージ1：膵島自己抗体陽性だが血糖正常の状態
- ステージ2：膵島自己抗体陽性で、血糖異常の状態
- ステージ3：膵島自己抗体陽性で高血糖状態（糖尿病発症）

従来T1DMは、ステージ3になってからインスリン投与による治療が行われてきました。現在はステージ1～2で介入し、T1DM発症抑制あるいは発症遅延を目指す治療が開発されてきています。将来的には、効率的なスクリーニングによってステージ1-2の状態を把握できるようになるかもしれません。

お知らせ

当院は小児内分泌学会認定「性分化疾患・準中核施設」(責任医師・佐野伸一郎)です。

出生時に性別判断に迷う外性器、乳児検診などで気になった外性器異常（尿道下裂、陰核肥大、陰唇肥大等）、性的違和を感じているお子さん、モザイクターナー女性、クラインフェルター症候群など性染色体にもとづく性分化疾患の方などに対応いたします。該当の方がいらっしゃいましたら、遠慮なく当科へご相談ください。

当科は、すべての小児内分泌代謝疾患に対応しています。

お困りの症例がありましたら遠慮なくご紹介ください。メールでのご相談も大歓迎です。

糖尿病・代謝内科科長
 内分泌代謝専門医・指導医、糖尿病学会専門医・指導 佐野 伸一郎
 E-mail: shinichiro-sano@i.shizuoka-pho.jp
 文献 1) N Engl J Med. 2019 Aug 15;381(7):603-613.
 2) Eur J Clin Pharmacol. 2023 May;79(5):609-616.



新任部門長の紹介



医療安全部長

小山 雅司



今年度から医療安全を担当いたします小山雅司です。画像診断が専門の放射線科医です。三十余年前、進路選択時に同僚や先輩から、放射線科は「影 (=画像)」を扱う陽の当たらない (陰) 診療科だから考え直せと諭されました。そういえば医療安全も外から見えない「陰」の存在です。

しかし「人は陰が大事」といわれるように、組織にとっても隠れたところでの真摯な活動が大切と考えます。さらに「影」として、医療の主役となる患者さんとその家族や職員が光源 (危険) に近づいた時は大きく、遠ざかれば小さくなって不即不離に寄り添う組織を目指したいと思えます。とはいえ暗中模索です。

医療安全は「管理室」ではなく、「医療現場」で守られます。患者さんをはじめ院内外の皆様のご協力なくして成り立ちません。日頃のご厚情に深謝いたしますとともに、これからも従前同様のご指導とご理解をお願い申し上げます。

外科系診療部長

福本 弘二



4月1日より外科系診療部長を拝命致しました、外科 (小児外科・成育外科) の福本です。

現在は、少子化の影響で手術数が減っており、外科では静岡県内での分散化も進行するなど、厳しい状況です。この流れのまま推移していき、当院で得られる経験が小さくなると、人材確保が困難になります。規模が縮小すると高度医療を提供できなくなる可能性もあります。周辺地域だけでも少子化に対応した集約化に向かえるように頑張りたいと思います。

その一方で、整形外科の側弯症手術、形成外科のレーザー治療など、まだ発展性のある分野もあります。心臓血管外科や呼吸器関連の各科などは県外からも多くのご紹介を頂いております。今後も伸ばせる分野や新しく取り組める分野に対しては、院内環境を整えて、患者を受け入れやすくしていきたいと思えます。

器官病態系内科診療部長

北山 浩嗣



2001年に赴任して長い年月が経ちました。こども達に良い医療を提供できるように夢中で診療に従事してきました。地域の医療機関や様々な機関との良い連携により、難しい状況のこども達にもより良い医療を提供できています。この場を借りて関係の皆様へ感謝申し上げます。院内は他科とコミュニケーションのとり易い病院で、看護師や多職種との良い協力関係にあります。多くのことを学ばせていただきました。院内外の関係の皆様へ深謝いたします。

私は2025年4月より内科系診療部長を拝命いたしました。今までの良い部分を継続しつつ、時代に合ったより良い医療を提供できるよう精進していきます。何か気になることや問題があれば遠慮なくご連絡下さい。真摯に対応していきたいと考えております。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

手術・材料部長

滝川 一晴



2025年4月より手術・材料部長に就任しました滝川一晴 (たきかわかずはる) と申します。1996年からの1年半と1999年からの3年半の合計5年間の静岡県立こども病院での研修の後、東京大学整形外科助手として勤務して参りました。2004年当院に再赴任し、2006年から整形外科科長としてこどもたちの診療に携わってきました。今回、手術室の責任者に任命された事は、私にとって大変光栄な事です。当院は各診療科や部門間の垣根が低く、こどもたちを第一に考えた連携をとる事が行いやすい組織です。安全・安心はもとより、よりよい医療を提供できるように多職種と協力して、こどもたちやそのご家族のために尽力する所存です。よろしくお願いたします。

周産期母子医療部長

中野 玲二



静岡県立こども病院の中野玲二と申します。周産期母子医療部長を4月から務めさせて頂くことになりました。2007年、当院に周産期母子医療センターが開設され20年弱になります。現在、ほとんどの早産児は、当院産科で生まれております。生後早期から、母親が父親と一緒に赤ちゃんに会えることは、今では当たり前になっていますが、県内の多くの周産期施設との連携があっこそ実現できたことです。静岡県内の周産期医療施設の皆様に改めて感謝の意を表します。

周産期医療にとって最も大切なことのひとつは地域化です。地域化とは、「総合周産期母子医療センターを中心として、社会的・経済的・医学的観点から、地域周産期医療のシステム化を図ること」を言います。教育的な観点からも地域化を図ることが、周産期医療の向上を持続可能なものにするには必要です。今後も、静岡県の周産期医療に身を捧げていきます。よろしくお願申し上げます。

診療支援部長

廣瀬 圭一



この4月より診療支援部長となりました廣瀬です。地域の皆様には心臓血管外科医師としてこれまでもお世話になっております。

今は働き方改革真っ只中の状況です。働き方改革を推進するためにはワークシェアリングが重要です。医療において、診療は多岐にわたる仕事です。その仕事を医療従事者間で分け合うことで、それぞれが働き易くなる環境を実現する事が求められています。

あくまで診療は患者さん中心であり、医療の質をさらに向上させつつ、医療従事者誰もが負担感を軽減できるように診療支援に携わって参りますので、ご理解ご協力よろしくお願い申し上げます。



新任部門長の紹介

移行期医療支援センター長

満下 紀恵



この4月より移行期医療支援センター長を拝命いたしました満下紀恵です。小児循環器科医として、心臓病をもつお子さん、ご家族と長年関わってきました。心臓病を持って生まれた赤ちゃんが治療を受けて元気になり、大きくなって学校へ通うようになり、社会人となっていく過程に伴送できたことは小児科医冥利に尽きます。ご存知の通り、小児期に生涯フォローが必要な慢性疾患や、小児期に治療は済んでいてもその後フォローが必要な多くの患者さんが、成人期を迎えています。成人期になってもシームレスに適切な施設で適切な医療を受けることができ、身体的、精神的、そして社会的にも幸せな人生を送れるよう、移行期医療支援は存在します。2020年当センターが設置され、委員会をはじめ、移行期支援外来部会、重症心身障害児者の移行を考える部会、レジストリー部会の3つで活動をしてきました。その体制を引き継ぎ、さらに医療施設のみならず、行政とも連携し活動していく所存です。ご指導、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

国際交流室室長

芳本 潤



前任の坂本喜三郎院長から引き継ぎ国際交流室室長を拝命しました、不整脈内科の芳本潤と申します。静岡県立こども病院はこれまで、多くの外国人医師、看護師、学生の皆様を温かく迎え続けてまいりました。数日から数ヶ月、あるいは一年におよぶ滞在期間中に、皆様は熱心に医療技術を習得され、それぞれの母国へと帰国されました。また、母国の医療の現状について語っていただく講義は、私たちにとっても貴重な学びの機会となっております。近年、国内にお住まいの外国人患者さんの受診も増加しており、中には海外から直接当院を受診され、治療を受けられる方もいらっしゃいます。そのような患者さんたちのサポートをすることも国際交流室の役割であると認識しております。これまでの国際交流室の活動をしっかりと継承しつつ、国際的な医療連携をさらに発展させ、当院の質の向上に貢献して参りたいと存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

循環器センター長

新居 正基



このたび、循環器センター長を拝命いたしました新居正基（にいまさき）です。当院に赴任して以来18年、地域の小児医療の一端を担うべく誠心誠意、診療に携わってまいりました。今後はセンター長としての責務を真摯に受け止め、さらなる高みを目指して精進していく所存です。循環器センターは診療のみならず、教育・研鑽の場としても極めて重要な役割を担っております。若手医師の育成に力を注ぐとともに、スタッフが互いに敬意と思いやりをもって支え合い、切磋琢磨できる職場環境の構築に努めてまいります。当センターには、各専門分野において全国的に卓越した実績を有するスタッフが多数在籍しており、極めて高い専門性とチーム力を兼ね備えた施設であると自負しております。地域の先生方におかれましては、安心してご紹介いただけるよう、引き続き信頼されるセンター運営に尽力してまいります。今後とも、何卒ご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

検査技術室技師長

横井 晴美



本年度より検査技術室の技師長を拝命いたしました横井です。これまで総合病院とこども病院に交互に勤務し、こども病院での勤務は通算25年目を迎えます。長年にわたり、多くのこどもたちやご家族と接する中で、「正確で迅速な検査が安心につながる」という思いで日々の業務に取り組んで参りました。現在、当検査室では国際的な品質基準であるISO15189の認定を取得し、精度の高い検査データの提供と、継続的な品質管理に力を入れております。これからも、こどもたちの健やかな成長と笑顔のために、職員一丸となって質の高い検査業務を提供してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療情報管理室長

太田 教隆



このたび、静岡県立こども病院 診療情報管理室長を拝命いたしました太田教隆です。心臓血管外科医としての臨床経験をもとに、目まぐるしく進化する情報社会に対応した、安全かつ正確な医療情報の管理と活用を推進してまいります。当院では、病院間での診療情報の共有をこれまで以上に円滑かつ実用的なものへと発展させ、地域の小児医療連携をより強固にすることを目指しております。県民の皆様へ「安心できる子育て」を実感していただける医療体制の構築に貢献できるよう、職務に誠心誠意取り組んでまいります。医療情報は、管理するだけでなく、迅速かつ的確に現場で活用されてこそ価値が生まれます。その実現に向けて、日々の改善と工夫を重ねてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。皆様からのご意見・ご要望もお寄せいただければ幸いです。

薬剤室長

井原 摂子



本年度より薬剤室長を拝命いたしました井原摂子と申します。こども病院は19年目となりました。薬剤室は病院理念に基づき、医療チームの一員として安全かつ適正な薬物療法を支援することを業務目標としています。小児薬物療法では年齢や体格に応じた薬用量や小児特有の副作用への配慮、服薬しやすい剤形への変更など、患者様の背景を考慮した個別対応が必要です。薬剤師もチームの一員として知恵を絞って日々業務にあたっております。また地域の調剤薬局や他施設の薬剤師と連携して、小児の患者様を支援しています。今後とも患者様や他職種の皆様、地域の薬剤師から必要とされる存在であり続けるよう、薬剤室一丸となって努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

役職別主要者一覧 (変更箇所は赤字)

| 役職 | 氏名 | 役職 | 氏名 | 役職 | 氏名 |
|----------------|--------|--------------|--------|----------------|--------|
| 院長 | 坂本 喜三郎 | 移植センター長 | 北山 浩嗣 | 役職【診療科長】 | |
| 副院長 | 田中 靖彦 | 輸血・細胞治療センター長 | 小倉 妙美 | 総合診療科長 | 伴 由布子 |
| 副院長 | 河村 秀樹 | 小児がんセンター長 | 渡邊 健一郎 | 小児感染症科長 | 荘司 貴代 |
| 副院長 | 渡邊 健一郎 | ゲノム医療センター長 | 清水 健司 | 小児救急科長 | 唐木 克二 |
| 副院長 | 内藤 美樹 | IVRセンター長 | 金 成海 | 小児内科長 | 勝又 元 |
| 事務部長 | 杉山 倫英 | エコーセンター長 | 新居 正基 | 新生児科長 | 中野 玲二 |
| 医療安全部長 | 小山 雅司 | | | 血液腫瘍科長 | 渡邊 健一郎 |
| 医療連携部長 | 北山 浩嗣 | 役職【室長】 | | 血液凝固科長 | 小倉 妙美 |
| 情報管理部長 | 河村 秀樹 | 医療安全管理室長 | 小山 雅司 | 遺伝染色体科 | 清水 健司 |
| 救急総合診療・地域医療部長 | 河村 秀樹 | 医療品質向上室長 | 小山 雅司 | 内分泌科長 | 上松 あゆ美 |
| 器官病態系内科診療部長 | 北山 浩嗣 | 感染対策室長 | 荘司 貴代 | 糖尿病・代謝内科長 | 佐野 伸一朗 |
| 外科系診療部長 | 福本 弘二 | 地域医療連携室長 | 北山 浩嗣 | 腎臓内科長 | 北山 浩嗣 |
| 移植再生医療部長 | 渡邊 健一郎 | 育児環境支援室長 | 田代 弦 | 免疫アレルギー科長 | 目黒 敬章 |
| こころの診療部長 | 大石 聡 | 入退院支援室長 | 北山 浩嗣 | 神経科長 | 松林 朋子 |
| 手術・材料部長 | 滝川 一晴 | 国際交流室長 | 芳本 潤 | 循環器科長 | 新居 正基 |
| 放射線診療部長 | 小山 雅司 | 総合医療相談室長 | 北山 浩嗣 | 不整脈内科長 | 芳本 潤 |
| 診療支援部長 | 廣瀬 圭一 | 小児がん相談室長 | 渡邊 健一郎 | 集中治療科長 | 川崎 達也 |
| 看護部長 | 内藤 美樹 | ボランティア活動支援室長 | 上松 あゆ美 | 放射線科長 | 小山 雅司 |
| 周産期母子医療部長 | 中野 玲二 | 褥瘡対策室長 | 加持 秀明 | 臨床検査科長 | 河村 秀樹 |
| | | 栄養サポート室長 | 福本 弘二 | 外科(小児外科・成育外科)長 | 福本 弘二 |
| 役職【センター長】 | | 臨床研究室長 | 渡邊 健一郎 | 消化器外科長 | 福本 弘二 |
| 患者相談センター長 | 目黒 敬章 | 治験管理室長 | 井原 摂子 | 呼吸器外科長 | 福本 弘二 |
| チーム医療推進センター長 | 廣瀬 圭一 | 研究支援室長 | 廣瀬 圭一 | 心臓血管外科長 | 廣瀬 圭一 |
| 移行期医療支援センター長 | 満下 紀恵 | 診療情報管理室長 | 太田 教陸 | 脳神経外科長 | 石崎 竜司 |
| 臨床研究支援センター長 | 渡邊 健一郎 | 診療画像管理室長 | 小山 雅司 | 整形外科長 | 滝川 一晴 |
| 研修推進センター長 | 松林 朋子 | ITシステム管理室長 | 芳本 潤 | 形成外科長 | 加持 秀明 |
| 予防接種センター長 | 松林 朋子 | 医師業務支援室長 | 野口 繁寿 | 眼科長 | 武田 優 |
| 総合診療センター長 | 伴 由布子 | 臨床工学室長 | 福本 弘二 | 耳鼻いんこう科長 | 橋本 亜矢子 |
| 小児救急医療センター長 | 唐木 克二 | 中央滅菌材料室長 | 滝川 一晴 | 泌尿器科長 | 濱野 敦 |
| 成人移行・診療センター長 | 満下 紀恵 | 放射線技術室技師長 | 梅田 聡志 | 皮膚科長 | - |
| 集中治療センター長 | 川崎 達也 | 検査技術室技師長 | 横井 晴美 | 産科長 | 河村 隆一 |
| 血友病診療センター長 | 小倉 妙美 | 輸血管理室長 | 川口 晃司 | 歯科長 | 渡邊 桂太 |
| 周産期母子センター長 | 中野 玲二 | 成育支援室長 | 溝渕 雅巳 | 麻酔科長 | 渡邊 朝香 |
| 循環器センター長 | 新居 正基 | リハビリテーション室長 | 真野 浩志 | 病理診断科長 | 岩淵 英人 |
| 脊椎診療センター長 | 滝川 一晴 | 心理療法室長 | 大石 聡 | リハビリテーション科長 | 真野 浩志 |
| 二分脊椎センター長 | 石崎 竜司 | 栄養管理室長 | 八木 佳子 | こころの診療科長 | 大石 聡 |
| 頭蓋顔面・口蓋裂センター長 | 加持 秀明 | 薬剤室長 | 井原 摂子 | 発達小児科長 | 溝渕 雅巳 |
| リハビリテーションセンター長 | 真野 浩志 | | | | |

静岡県立こども病院QRコード



★ホームページ

様々な情報の発信や内容の充実につとめています。
お知らせは定期的に更新しています。是非ご覧ください。

←こちらからアクセス

編集後記 新年度、病院も体制を新たにしました。「居住地に関らず、適切な医療を提供できる体制作り」に向け、進んでまいります。
編集室：河村秀樹、太田教陸、小澤久美、野中幸子